

総選挙「野党共闘失敗」論 まったく デマ

共産・立憲・社民・れいわの4野党が共闘した総選挙。一部メディアはその結果を「野党共闘は失敗」と描き出しています。これは事実まったく反するデマ攻撃。4野党が一本化して臨んだ207の小選挙区では、「共闘効果」がハッキリ。野党バラバラなら自民圧勝、共闘がさらに力あるものになっていたら異なる結果になっていました。

4野党の「共闘勢力」で一本化した207小選挙区の結果

補得票割合 に対する小選挙区候補	4野党の比例票合計			
	選挙区当選 59	比例復活 40	15	当選ならず 92
		得票率差10%未満		得票率差10%以上
100%以上の選挙区数	56	39	13	36
100%未満の選挙区数	3	1	2	57

59小選挙区で勝利 比例復活当選も

この207小選挙区で4野党が一本化した候補は59選挙区で勝利。自民党の重鎮らを落選させました。当選できなかった148選挙区でも自公、維新らの候補との得票率の差を10%未満の僅差に追い込んだ選挙区が55。うち40選挙区で一本化候補が比例復活しました。復活できなかった15選挙区でも14選挙区で自民党候補などに2万票差内に追い上げました。

4野党の比例票を 144選挙区で上回る

207小選挙区での4野党の比例票の合計に対して一本化候補の得票の割合はどうかを調べてみると――。その結果、約7割の144選挙区で候補者得票が4党の比例票合計を上回りました。無党派層・他党支持層からの支持が広がるなど「共闘効果」が示されました。

「共闘否定でなく、徹底されなかったのが問題」 中島岳志・東工大教授

一部右派メディアが野党共闘「惨敗論」をふりまいています。しかし自らの報道でも「共闘効果」を認めています。「読売」は「政策軽視の共闘が惨敗を招いた」（11月3日付社説）と書きました。しかし「読売」自身が「自民当選者2割が辛勝／差5%未満34人 前回比1.3倍」（11月4日付）

「読売」も「野党共闘効果」

の見出しで、野党候補一本化は「一定の効果はあった」との自民幹部の話を紹介しています。

保守の論客・東京工業大の中島岳志教授は、「野党共闘が否定されたのではなく、野党共闘が徹底できなかったことが問題なのである」（北海道新聞11月23日付など）と指摘しています。

立憲・泉新代表に 祝意

「力あわせ野党共闘を前進させたい」

表明 志位委員長



志位和夫委員長

共産党の志位和夫委員長は11月30日、記者会見し、立憲民主党の代表選で泉健太氏が新代表に選出されたことについて、「心から祝意を申し上げたい。野党共闘をぜひ力をあわせて前進させていきたい」と表明しました。

立憲民主党との間で結んだ政権協力合意については、「公党間の合意。合意に基づき、選挙をたたかったわけだから、国民に対する公約。わが党としては誠実に順守していきたいし、立憲民主党にもそういう立場で対応してもらいたい」と語りました。

日本共産党